

1987年 大会記録

国際

メドベジ国際大会 = 男子フリースタイル (2月27日~3月1日、ソ連・ミンスク)

48kg級 小林孝至(ユナイテッドスティール) = 3位、 57kg級 鈴木康文(自衛隊) = 三失、金浜良(日大) = 二失、 62kg級 安達巧(日体大) = 2位、吉田実(自衛隊) = 三失、 68kg級 原喜彦(日体大) = 二失、 82kg級 赤石明雄(山梨県教委)、菊地隆(和歌山県教委) = 三失

全米選手権 = 男子フリースタイル (4月16~17日、米国・ラスベガス)

48kg級 入江隆(自衛隊) = 優勝、東野勝(大東大) = 5位、 52kg級 佐藤満(日体大助) = 優勝、 57kg級 朝倉利夫(国土館大教) = 6位、佐々木一郎(日体大) = 7位、 62kg級 栄和人(奈良県教委) = 六失、安達巧(日体大) = 優勝、五位塚悟(山梨県教委) = 4位、 68kg級 原喜彦(日体大研) = 六失、 74kg級 平山宣伸(日体大研) = 三失、 82kg級 伊藤敦(日体大) = 7位、菊地隆(和歌山県教委)、 90kg級 豎山保文(自衛隊) = 二失、赤石明雄(山梨県教委) = 四失、中西学(専大) = 三失

コンコード国際大会 = 男子グレコローマン (5月22~24日、米国・コンコード)

48kg級 斉藤育造(和歌山県教委) = 3位、蝦名康一(自衛隊) = 4位、 52kg級 宮原厚次(自衛隊) = 優勝、 57kg級 近浦淳二(日大) = 四失、 62kg級 西口茂樹(日体大) = 2位、 68kg級 三宅靖志(東海商船) = 3位、 74kg級 伊藤広道(自衛隊) = 6位、 82kg級 向井孝博(自衛隊) = 4位、 90kg級 森山泰年(自衛隊) = 5位、 100kg級 近藤務(自衛隊) = 3位

世界エスポアール選手権 (8月10~15日、カナダ・バーナビー)

《男子フリースタイル》 48kg級 山下忍(日体大) = 7位、 52kg級 笹山秀雄(自衛隊) = 優勝、 57kg級 金浜良(日大) = 3位、 62kg級 松元大吉(東洋大) = 6位、 68kg級 嶺岸武(日体大) = 8位、 74kg級 田崎光之(国土館大) = 9位、 82kg級 高木博章(専大) = 2位、 90kg級 本田大(山梨学院大) = 10位、 100kg級 間山泰範(日体大) = 6位、 130kg級 小幡弘之(日大) = 7位

《男子グレコローマン》 48kg級 清水一成(日体大) = 棄権、 52kg級 平野正春(拓大) = 9位、 57kg級 中村吉信(日大) = 7位、 62kg級 榎田貢(東洋大) = 10位、 68kg級 今村浩之(日体大) = 二失、 74kg級 川井孝人(日体大) = 二失、 82kg級

永田裕志(日体大) = 三失、 90kg 級 久米田雅勝(日大) = 棄権、 100kg 級 園田崇(日体大) = 8 位、 130kg 級 神子沢健一(自衛隊)

世界選手権(8月19~29日、フランス・クレルモンフェラン)

《男子フリースタイル》 48kg 級 小林孝至(ユナイテッドスティール) = 三失、 52kg 級 佐藤満(日体大助手) = 3 位、 57kg 級 朝倉利夫(国士舘大教) = 7 位、 62kg 級 栄和人(奈良県教委) = 3 位、 68kg 級 赤石光生(ユナイテッドスティール) = 4 位、 74kg 級 高橋信明(専大) = 10 位、 82kg 級 菊地隆(和歌山県教委) = 二失、 90kg 級 赤石明雄(東山梨教育事務所) = 二失、 100kg 級 本田多聞(自衛隊) = 二失、 130kg 級 猿田充(山梨・甲府西高教) = 三失

《男子グレコローマン》 48kg 級 斉藤育造(和歌山県教委) = 三失、 52kg 級 宮原厚次(自衛隊) = 二失、 57kg 級 河本勲(自衛隊) = 7 位、 62kg 級 西口茂樹(日体大) = 3 位、 68kg 級 森巧(沖縄県協会) = 7 位、 74kg 級 伊藤広道(自衛隊) = 10 位、 82kg 級 向井孝博(自衛隊) = 二失、 90kg 級 森山泰年(自衛隊) = 6 位、 100kg 級 近藤務(自衛隊) = 8 位、 130kg 級 出口一也(国士舘大) = 二失

アジア選手権(10月13~17日、インド・ボンベイ)

《男子フリースタイル》 48kg 級 東野勝(大東大) = 4 位、 52kg 級 沖山功(日体大) = 2 位、 57kg 級 佐々木一郎(日体大) = 5 位、 62kg 級 安達巧(日体大) = 優勝、 68kg 級 原喜彦(原園芸) = 優勝、 74kg 級 角崎朋博(日体大) = 5 位、 82kg 級 伊藤敦(日体大) = 2 位、 90kg 級 有本良孝(和歌山県教委) = 2 位、 100kg 級 中西学(専大) = 5 位、 130kg 級 奈良英則(日大) = 3 位

《男子グレコローマン》 48kg 級 蝦名康一(自衛隊) = 3 位、 52kg 級 中森昭平(日体大) = 5 位、 57kg 級 河本勲(自衛隊) = 優勝、 62kg 級 出口泰三(和歌山県教委) = 2 位、 68kg 級 三宅靖志(東海商船) = 3 位、 74kg 級 伊藤広道(自衛隊) = 優勝、 82kg 級 小林希(日体大) = 2 位、 90kg 級 東出徹(奈良県教委) = 優勝、 100kg 級 福辺雅彦(奈良県教委) = 3 位、 130kg 級 = 派遣なし

世界選手権 = 女子(10月24~25日、ノルウェー・オスロ)

44kg 級 吉村祥子(代々木ク) = 3 位、 47kg 級 菅原さとみ(代々木ク) = 3 位、 50kg 級 福田京子(代々木ク) = 2 位、 53kg 級 坂本涼子(吹田市民教室) = 5 位、 57kg 級 福原邦子(代々木ク) = 二失、 佐藤玲子(城西ク) = 7 位、 61kg 級 飯島晶子(Cフィットネス藤沢) = 2 位、 65kg 級 星川君枝(ユナイテッドスティール) = 3 位、 70kg 級 岩間利香(代々木ク) = 2 位、 75kg 級 清水美弥子(代々木ク) = 2 位

ソウル国際大会(11月7~8日、韓国・ソウル)

《男子フリースタイル》 48kg 級 小林孝至(ユナイテッドスチール) = 優勝、 62kg 級 栄和人(奈良県教委) = 三失、 68kg 級 原喜彦(原園芸) = 2位、 74kg 級 高橋信明(専大) = 二失

《男子グレコローマン》 48kg 級 蝦名康一(自衛隊) = 二失、 52kg 級 一色啓雅() 4位、 57kg 級 中留俊司(京都・南八幡高教) = 二失、 62kg 級 西口茂樹(日体大) = 一棄、 68kg 級 三宅靖志(東海商船) = 二失、 74kg 級 伊藤広道(自衛隊) = 四失

ワールドカップ=男子グレコローマン(11月14~15日、米国・オルバニー)

5位(4敗)

- 1回戦 日本 [2 - 8] キューバ
- 2回戦 日本 [3 - 7] スカンジナビア連合
- 3回戦 日本 [2 - 8] ソ連
- 4回戦 日本 [5 - 5] 米国

《個人順位》 48kg 級 大橋正教(山梨学院大職) = 4位、 52kg 級 中森昭平(日体大) = 4位、 57kg 級 黒飛健(自衛隊) = 3位、 62kg 級 吉田健(日体大) = 5位、 68kg 級 堀浩章(日体大) = 5位、 74kg 級 湯浅邦茂(山梨運動公園体育館) = 4位、 82kg 級 屋比久保(沖縄県協会) = 4位、 90kg 級 東出徹(奈良橿原公苑) = 4位、 100kg 級 福辺雅彦(奈良・御所工高教) = 5位、 130kg 級 神子沢健一(自衛隊) = 4位

ワールドカップ=男子フリースタイル(11月27~29日、モンゴル・ウランバートル)

5位(1勝4敗)

- 1回戦 日本 [2 - 8] 米国
- 2回戦 日本 [0 - 10] ソ連
- 3回戦 日本 [6 - 4] 豪州
- 4回戦 日本 [2 - 8] キューバ
- 5回戦 日本 [1 - 9] モンゴル

《個人順位》 48kg 級 山下忍(日体大) = 5位、 52kg 級 上島一敏(沖縄県協会) = 4位、 57kg 級 角地山豊(警視庁) = 5位、 62kg 級 五位塚悟(山梨県教委) = 5位、 68kg 級 赤石光生(ユナイテッドスチール) = 6位、 74kg 級 = 派遣なし、 82kg 級 高木博章(専大) = 5位、 90kg 級 赤石明雄(山梨県教委) = 5位、 100kg 級 = 派

遣なし、 130kg 級 = 派遣なし

国内

アジア選手権代表選考会（3月7～8日、東京・青少年総合センター）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 東野勝（大東大）、 52kg 級 沖山功（日体大）、 57kg 級 佐々木一郎（日体大）、 62kg 級 安達巧（日体大）、 68kg 級 赤石光生（日大）、 74kg 級 岸本茂範（東京海上火災）、 82kg 級 伊藤敦（日体大）、 90kg 級 豎山保文（自衛隊）、 100kg 級 中西学（専大）、 130kg 級 猿田充（山梨県スポーツ事業団）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 蝦名康一（自衛隊）、 52kg 級 中森昭平（日体大）、 57kg 級 河本勲（自衛隊）、 62kg 級 大城利幸（自衛隊）、 68kg 級 三宅靖志（東海商船）、 74kg 級 伊藤広道（自衛隊）、 82kg 級 向井孝博（自衛隊）、 90kg 級 東出徹（奈良橿原公苑）、 100kg 級 福辺雅彦（奈良橿原公苑）、 130kg 級 出口一也（国士館大）

全国高校選抜大会（3月29～30日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 埼玉・埼玉栄（初）、[2] 茨城・霞ヶ浦、[3] 鹿児島・鹿児島商工、秋田・秋田商

《個人戦優勝者》 46kg 級 山口英雄（群馬・館林）、 50kg 級 野口勝美（茨城・霞ヶ浦）、 54kg 級 勝龍三郎（鹿児島・鹿児島商工）、 58kg 級 小山田美春（秋田・秋田経法大付）、 63kg 級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦）、 68kg 級 石川宏明（埼玉・埼玉栄）、 74kg 級 丹下一（茨城・霞ヶ浦）、 115kg 級 宮崎久（茨城・霞ヶ浦）

西日本学生春季新人戦 = 男子フリースタイル（ ）

《優勝者》 48kg 級 山根宣夫（徳山大）、 52kg 級 小泉円（同志社大）、 57kg 級 嶋也幸（徳山大）、 62kg 級 中井直也（同志社大）、 68kg 級 土橋啓之（近大）、 74kg 級 柳本和紀（同志社大）、 82kg 級 村上勉（桃山学院大）、 90kg 級 安楽純二（同志社大）

フリースタイルのみ

東日本学生リーグ戦（5月14～16・29日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（9年連続11度目）、[2] 日大

（A組）[1] 日体大、[2] 国士大、[3] 専大、[4] 東海大、[5] 大東大、[6] 法

大

(B組)[1]日大、[2]東洋大、[3]中大、[4]早大、[5]山梨学院大、[6]明大

西日本学生選手権(5月29~31日、京都・弥栄町社会体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 小泉円(同志社大)、 52kg級 西川知志(同志社大)、 57kg級 中井直也(同志社大)、 62kg級 小島直人(徳山大)、 68kg級 坂出裕(福岡大)、 74kg級 浅井徹(近大)、 82kg級 竹中邦仁(近大)、 90kg級 芳村昌秀(同志社大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 小泉円(同志社大)、 52kg級 原田丈生(福岡大)、 57kg級 中井直也(同志社大)、 62kg級 小島直人(徳山大)、 68kg級 内山一栄(同志社大)、 74kg級 浅井徹(近大)、 82kg級 安楽純二(同志社大)、 90kg級 芳村昌秀(同志社大)

世界エスポアール選手権代表選考会(6月8~9日、東京・青少年総合センター)

《男子フリースタイル》 48kg級 山下忍(日体大)、 52kg級 笹山秀雄(自衛隊)、 57kg級 金浜良(日大)、 62kg級 松元大吉(東洋大)、 68kg級 嶺岸武(日体大)、 74kg級 紀満憲(専大)、 82kg級 高木博章(専大)、 90kg級 本田大(山梨学院大)、 100kg級 間山泰範(日体大)、 130kg級 小幡弘之(日大)

《男子グレコローマン》 48kg級 清水一成(日体大)、 52kg級 平野正春(拓大)、 57kg級 中村吉信(日大)、 62kg級 榎田貢(東洋大)、 68kg級 今村浩之(日体大)、 74kg級 川井孝人(日体大)、 82kg級 金永峰(日大)、 90kg級 久米田雅勝(日大)、 100kg級 園田崇(日体大)、 130kg級 神子沢健一(自衛隊)

全日本社会人選手権(6月13~14日、東京・青少年総合センター)

《団体戦優勝チーム》 実業団 ユナイテッドスティールB、 クラブ N C P E

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 矢作章(ユナイテッド・スティール)、 52kg級 上島一敏(沖縄県協会)、 57kg級 佐藤満(日体大OBク)、 62kg級 吉田実(自衛隊)、 68kg級 赤石光生(ユナイテッド・スティール)、 74kg級 佐川正吉(自衛隊)、 82kg級 伊藤敦(日体大OBク)、 90kg級 赤石明雄(山梨ク)、 100kg級 平山進(滋賀県協会)、 130kg級 本田多聞(自衛隊)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 大橋正教(山梨ク)、 52kg級 一色啓雅(和

歌山県協会)、 57kg 級 河本勲(自衛隊)、 62kg 級 大城利幸(自衛隊)、 68kg 級 森巧(沖縄県協会)、 74kg 級 湯浅邦茂(山梨ク)、 82kg 級 屋比久保(沖縄県協会)、 90kg 級 東出徹(奈良ク)、 100kg 級 福辺雅彦(奈良ク)、 130kg 級 神子沢健一(自衛隊)

西日本学生春季リーグ戦(6月16~18日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1]同志社大(3季ぶり9度目)、[2]近大、[3]福岡大、[4]、[5]、[6]

全日本女子オープン選手権(6月21日、東京・スポーツ会館)

《優勝者》 44kg 級 吉村祥子(代々木ク)、 48kg 級 大金孝子(栃木・馬頭高)、 50kg 級 福田京子(代々木ク)、 53kg 級 遠藤美子(茨城・荳崎高)、 57kg 級 坂本涼子(吹田市民教室)、 61kg 級 長谷川弘美(全日本女子プロレス)、 65kg 級 星川君枝(ユナイテッドスティール)、 70kg 級 飯島晶子(木口道場)、 75kg 級 山田敏代(全日本女子プロレス)、 75kg 以上級 市川千秋(全日本女子プロレス)

東日本学生春季新人戦(6月30日~7月2日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 水野将嘉(早大)、 52kg 級 山崎節(東洋大)、 57kg 級 今村茂(東洋大)、 62kg 級 奥山恵二(日体大)、 68kg 級 嶺岸武(日体大)、 74kg 級 紀満憲(専大)、 82kg 級 田崎光之(国士館大)、 90kg 級 久米田雅勝(日大)、 90kg 以上級 相ノ山晃(中大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 宮脇謙次(専大)、 52kg 級 山崎節(東洋大)、 57kg 級 高村吉信(日大)、 62kg 級 藤岡道三(日体大)、 68kg 級 山田琢也(専大)、 74kg 級 紀満憲(専大)、 82kg 級 得本啓次(日体大)、 90kg 級 園田嵩(日体大)、 90kg 以上級 間山泰範(日体大)

全日本選手権(7月3~5日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 小林孝至(ユナイテッドスティール)、 52kg 級 佐藤満(日体大助手)、 57kg 級 朝倉利夫(国士館大教)、 62kg 級 栄和人(奈良県教委)、 68kg 級 赤石光生(ユナイテッドスティール)、 74kg 級 高橋信明(専大)、 82kg 級 菊地隆(和歌山県教委)、 90kg 級 赤石明雄(東山梨教育事務所)、 100kg 級 本田多聞(自衛隊)、 130kg 級 猿田充(山梨・甲府西高教)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 斉藤育造(和歌山県教委)、 52kg 級 宮原厚次(自衛隊)、 57kg 級 河本勲(自衛隊)、 62kg 級 西口茂樹(日体大)、 68kg 級 森巧(沖縄県協会)、 74kg 級 伊藤広道(自衛隊)、 82kg 級 向井孝博(自衛隊)、

90kg 級 森山泰年(自衛隊)、 100kg 級 近藤務(自衛隊)、 130kg 級 出口一也(国士館大)

インターハイ(8月1~4日、北海道・旭川市)

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦(2年連続2度目)、[2] 秋田・秋田商、[3] 埼玉・埼玉栄、鹿児島・鹿児島商工

《個人戦優勝者》 46kg 級 沖山尚春(茨城・霞ヶ浦)、 50kg 級 下村保伸(茨城・土浦日大)、 54kg 級 勝龍三郎(鹿児島・鹿児島商工)、 58kg 級 小山田美春(秋田・秋田経法大付)、 63kg 級 松田昌明(沖縄・嘉手納)、 68kg 級 三井真吾(千葉・八千代松陰)、 74kg 級 石川宏明(埼玉・埼玉栄)、 115kg 級 高橋則行(青森・八戸工)

全国高校生グレコローマン選手権(8月22~23日、東京・大森工高)

《優勝者》 46kg 級 坂村智紀(群馬・関東学園)、 50kg 級 佐藤貢(秋田・秋田商)、 54kg 級 西原恒和(奈良・添上)、 58kg 級 古屋博也(山梨・韮崎工)、 63kg 級 松田昌明(沖縄・嘉手納)、 68kg 級 高橋一道(茨城・土浦日大)、 74kg 級 伊藤強(秋田・秋田商)、 81kg 級 中嶋智彦(秋田・秋田商)、 87kg 級 佐川智志(秋田・秋田商)、 115kg 級 宮崎久(茨城・霞ヶ浦)

全日本学生選手権(8月26~29日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 山下忍(日体大)、 52kg 級 沖山功(日体大)、 57kg 級 金浜良(日大)、 62kg 級 安達巧(日体大)、 68kg 級 有延伸一(国士館大)、 74kg 級 角崎朋博(日体大)、 82kg 級 高木博章(専大)、 90kg 級 浅沼俊幸(国士館大)、 100kg 級 間山泰範(日体大)、 130kg 級 奈良英則(日大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 平野(拓大)、 52kg 級 中森昭平(日体大)、 57kg 級 山元浩(日体大)、 62kg 級 竹下敬(日体大)、 68kg 級 堀浩章(日体大)、 74kg 級 森太郎(日体大)、 82kg 級 小林希(日体大)、 90kg 級 久米田雅勝(日大)、 100kg 級 間山泰範(日体大)、 130kg 級 出口一也(国士館大)

西日本学生新人戦()

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 桜井保志(同志社大)、 52kg 級 荻野昌利(近大)、 57kg 級 金沢元明(近大)、 62kg 級 辻久信(近大)、 68kg 級 中井直也(同志社大)、 74kg 級 岡田孝志(近大)、 82kg 級 清水勝(近大)、 90kg 級 安楽純二(同志社大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 桜井保志(同志社大)、 52kg 級 小泉円(同志社大)、 57kg 級 金沢元明(近大)、 62kg 級 中井直也(同志社大)、 68kg 級 大谷和弘(同志社大)、 74kg 級 岡田孝志(近大)、 82kg 級 清水勝(近大)、 90kg 級 安楽純二(同志社大)

東日本学生グレコローマン選手権(9月14日、東京・駒沢体育館) = 決勝成績

日体大 [] 国士舘大

全日本学生王座決定戦(9月25~26日、東京・駒沢体育館) = 決勝成績

日体大 [6 - 3] 国士舘大

日体大は 10 年連続 11 度目の優勝

全日本女子選手権(10月4・10日、東京・城西高、後樂園ホール)

《優勝者》 44kg 級 山本美憂(神奈川・トキワ松学園中)、 47kg 級 菅原さとみ(代々木ク)、 50kg 級 福田京子(代々木ク)、 53kg 級 坂本涼子(吹田市民教室)、 57kg 級 福原邦子(代々木ク)、 61kg 級 飯島晶子(Cフィットネス藤沢)、 65kg 級 豊田真奈美(全日本女子プロ)、 70kg 級 岩間利香(代々木ク)、 75kg 級 清水美弥子(代々木ク)、 75kg 以上級 市川千秋(全日本女子プロレス)

国体(10月26~28日、沖縄・本部高)

《成年フリースタイル優勝者》 48kg 級 石川真一(岩手・太田の園)、 52kg 級 上島一敏(沖縄・西里建築)、 57kg 級 金浜良(青森・日大)、 62kg 級 栄和人(奈良・県教委)、 68kg 級 有延伸一(福岡・国士舘大)、 74kg 級 高橋信明(青森・専大)、 82kg 級 菊地隆(和歌山・県教育庁)、 90kg 級 浅沼俊幸(青森・国士舘大)、 100kg 級 本田多聞(埼玉・自衛隊)、 130kg 級 猿田充(山梨・甲府一高教)

《成年グレコローマン優勝者》 48kg 級 大橋正教(山梨・山梨学院大)、 52kg 級 大川秀和(奈良・高田東高教)、 57kg 級 中留俊司(京都・南八幡高教)、 62kg 級 大城利幸(沖縄・自衛隊)、 68kg 級 三宅靖志(神奈川・東海商船)、 74kg 級 伊藤広道(埼玉・自衛隊)、 82kg 級 屋比久保(沖縄・西里建築研究所)、 90kg 級 東出徹(奈良・橿原公苑)、 100kg 級 藤森安一(東京・警視庁)、 130kg 級 出口一也(和歌山・国士舘大)

《少年フリースタイル優勝者》 46kg 級 野村哲也(埼玉・埼玉栄)、 50kg 級 沖山尚春(茨城・霞ヶ浦)、 54kg 級 下村保伸(茨城・土浦日大)、 58kg 級 岡安雄一郎

(千葉・八千代松陰)、 63kg 級 高橋一道(茨城・土浦日大)、 68kg 級 平塚洋充(東京・京北)、 74kg 級 伊藤強(秋田・秋田商)、 81kg 級 丹下一(茨城・霞ヶ浦)、 88kg 級 藤田和之(千葉・八千代松陰)、 115kg 級 工藤雅好(山形・山形商)

《少年グレコローマン優勝者》 46kg 級 坂村智幸(群馬・関東学園)、 50kg 級 沼田義次(奈良・添上)、 54kg 級 西原恒和(奈良・添上)、 58kg 級 曾貝誠治(岐阜・岐阜工)、 63kg 級 木村成明(埼玉・埼玉栄)、 68kg 級 山方隆之(福岡・築上西)、 74kg 級 石川宏明(埼玉・埼玉栄)、 81kg 級 太田浩史(岐阜・水口)、 88kg 級 佐川智志(秋田・秋田商)、 115kg 級 宮崎久(茨城・霞ヶ浦)

全日本大学選手権(11月7~8日、大阪・大阪府立体育会館)

《優勝者》 48kg 級 小泉円(同志社大)、 52kg 級 沖山功(日体大)、 57kg 級 佐々木一郎(日体大)、 62kg 級 戸崎素成(日体大)、 68kg 級 安達巧(日体大)、 74kg 級 有延伸一(国士館大)、 82kg 級 奈良岡豊(日大)、 90kg 級 小林希(日体大)、 100kg 級 浅沼俊幸(国士館大)、 130kg 級 奈良英則(日大)

《大学対抗得点》[1] 日体大(4年連続11度目)、[2] 国士館大、[3] 日大

東日本学生秋季新人戦(11月18~20日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 山本哲也(日体大)、 52kg 級 小野和幸(中大)、 57kg 級 中村吉信(日大)、 62kg 級 三村広光(日体大)、 68kg 級 小坂明(日大)、 74kg 級 嶺岸武(日体大)、 82kg 級 石沢常光(早大)、 90kg 級 田崎光之(国士館大)、 90kg 以上級 間山泰範(日体大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 平野孝喜(山梨学院大)、 52kg 級 小野和浩(中大)、 57kg 級 市橋敏之(東洋大)、 62kg 級 高安智彦(東海大)、 68kg 級 小坂明(日大)、 74kg 級 南博信(明大)、 82kg 級 田崎光之(国士館大)、 90kg 級 久米田雅勝(日大)、 90kg 以上級 小幡弘之(日大)

全国社会人オープン選手権(11月21~22日、神奈川・横浜市消防訓練センター)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 矢作章(ユナイテッドスティール)、 52kg 級 入江隆(自衛隊)、 57kg 級 奥屋敷賢彦(自衛隊)、 62kg 級 五十嵐淳一(自衛隊)、 68kg 級 坂口秀春(少年工科学教)、 74kg 級 中田薫(警視庁)、 82kg 級 梅木稔(朝霞消防署)、 90kg 級 和久井始(自衛隊)、 100kg 級 島田宏(三洋電機)、 130kg 級 大川浩一(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 矢作章（ユナイテッドスティール）、 52kg 級 大塚隆弘（ユナイテッドスティール）、 57kg 級 西見健吉（自衛隊）、 62kg 級 菅原弘（自衛隊）、 68kg 級 安藤清一（自衛隊）、 74kg 級 小林由明（ユナイテッドスティール）、 82kg 級 梅木稔（朝霞消防署）、 90kg 級 和久井始（自衛隊）、 100kg 級 鈴木寛（本田技研鈴鹿）、 130kg 級 呑香龍二（八戸東洋水産）

西日本学生秋季リーグ戦（11月27～28日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1]同志社大（2季連続10度目）、[2]徳山大、[3]近大、[4]、[5]、[6]

ソウル五輪第1次選考会（12月10～12日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 笹山秀雄（自衛隊）、 52kg 級 坂木勇夫（専大）、 57kg 級 金浜良（日大）、 62kg 級 安達巧（日体大）、 68kg 級 嶺岸武（日体大）、 74kg 級 原喜彦（日体大研）、 82kg 級 樋口直己（三重・桑名工高教）、 90kg 級 太田章（早大教）、 100kg 級 間山泰範（日体大）、 130kg 級 小幡弘之（日大）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 山本哲也（日体大）、 52kg 級 中森昭平（日体大）、 57kg 級 藤波俊一（三重・員弁高教）、 62kg 級 長内清一（青森・八戸工高教）、 68kg 級 三宅靖志（東海商船）、 74kg 級 小林希（日体大）、 82kg 級 永田裕志（日体大）、 90kg 級 東出徹（奈良県教委）、 100kg 級 野々村孝（山梨学院大）、 130kg 級 鋤崎太（山梨学院大）